

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、令和4年4月19日に「全国学力・学習状況調査」が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されましたので、その結果をお知らせします。

なお、序列化や過度な競争につながるような数値表現でのお知らせではないことをご理解くださるようお願いします。

本校児童の学力の定着状況は、県・全国平均と同程度で、大きな差異はありません。

各教科の観点別の成果と課題については、以下のとおりです。この結果を参考にして、各教科の授業改善に取り組みます。

< 国 語 >

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができます。発表する文章を書いた後、推敲する時間を多く設定したことで、話し言葉と書き言葉の違いに着目することができます。言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題が見受けられるため、相手の発言の内容を適切に捉えた上で、つながりを意識して発言できるよう指導を工夫していきます。

【話すこと・聞くこと】

学級会やテーマに沿って話し合う活動を取り入れたことにより、話し手が伝えたいことや、自分が聞きたいことの中心を捉えることができます。様々な視点から検討したり、互いの立場を明確にしながら話し合ったりすることに課題がみられます。異なる立場からの考えを聞き、様々な視点から検討した上で自分の考えを広げたりまとめたりすることができるよう指導を工夫していきます。

【書くこと】

文章全体の構成や書き表し方などに注目して、文や文章を整えることができます。しかし、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることに課題が見られます。友達と文章に対する感想や意見を伝え合う時間を十分設けると共に、具体的に伝え合うことにも重点を置き、自分の文章のよいところに気づけるよう指導していきます。

【読むこと】

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができます。また、描写を基に登場人物の相互関係について捉えたり、人物像や物語の全体像を具体的に想像したりすることができます。しかし、表現の効果を考えることに課題があるため、文章を読み取る際、工夫された表現を見つけたり、その効果について考えたりするようにし、表現の効果にも目を向けられるよう指導を工夫していきます。

< 算 数 >

【数と計算】

日々の計算ドリルや計算スキル、e-ライブラリーなどで反復練習を行った結果、当該学年の計算を定着することができています。概数に関する学習は買い物等の計算でも非常に有効な手段となるため、数学的活動を通して、日常生活に生かすことができるよう指導を工夫していきます。

【図形】

図形学習をする際には、図形の性質を元に多様な方法で作図することを学習してきた結果、基本的な図形の作図は定着しているため、作図分野は理解しています。引き続き、コンパスや分度器を使つての作図に加えて、プログラミングを用いた作図の練習、デジタル教科書を活用した作図練習等を取り入れて、しっかりと概念が理解できるよう指導を工夫していきます。

【変化と関係】

問題場面の数量関係に着目し、もとにする数（基準量）、くらべる数（比較量）、割合の関係や、伴って変わる2つの数量関係について理解することに課題がありました。問題場面を正しくイメージできるよう、テープ図や数直線図、関係図等を用いて、問題場面を正しくイメージできるよう指導の工夫に努めます。

【データの活用】

表の意味やグラフの特徴を理解し、目的に応じて表やグラフに表したり、データの特徴や傾向を読み取ったりすることはできています。データを扱う単位では、数字に着目するだけでなく、全体や他の項目と比較したり、データを基に目的に応じてデータの特徴を考察したりできるよう指導を工夫していきます。

< 理 科 >

【「エネルギー」を柱とする領域】

「自然の事物・現象の理解」では、光の性質である、「光の直進性」に関する問いに課題が見受けられました。光は直進するだけでなく、集めたり反射させたりできる性質があることを理解するとともに、観察・実験などに関する技能を身につけることができるよう指導の工夫を図ります。

【「粒子」を柱とする領域】

実験で使用している器具の理解や正しい扱い方に課題がありました。器具や機器などの操作にどのような意味があるのか理解を促し、目的に応じた実験を行い、知識及び技能を高めながら問題解決できるよう指導を工夫していきます。

【「生命」を柱とする領域】

「ナナホシテントウの育ち方」の観察実験では、問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題解決の道筋を構想し自分の考えを持つことができます。これからも、観察、実験の結果についての気づきを明確にし、違いや共通点を基に他者の意見も理解しながら問題を見いだす学習場面を設定することで、理解の定着を図ります。

【「地球」を柱とする領域】

「冬の天気と気温の変化」のグラフから、観察で得た結果を問題の視点で分析して、解釈し自分の考えを持つことができます。また、問題解決までの道筋を構想するために、問題から予想や仮説を発想し、それを基に解決方法を発想できるよう、観察、実験などを工夫して行えるようにしていきます。

＜ 生活面 ＞ ※ 顕著な項目を紹介します。

基本的生活習慣等について、「朝食を毎日食べている」、「毎日同じくらいの時刻に起きている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が高く、家庭と連携した食育の取組を通して、「早寝早起き朝ごはん」が定着しつつあることがうかがえます。

普段（月曜日から金曜日）1日あたり1時間以上テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をすると回答した児童の割合は県平均よりやや高くなっています。普段（月曜日から金曜日）、1日あたり1時間以上携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴等をする（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）と回答している割合も一定数あります。また、携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、「家の人と約束したことを守っていますか」という問いに対して、「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した割合は高いのですが、「あまり守っていない」「守っていない」「携帯電話は持っているが約束はない」と回答した割合も一定数あり、これらの状況から、学校、家庭が連携した取組を今後も継続していく必要があります。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感について、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役にたつ人間になりたい」等の問に肯定的な回答をしている割合が高く、自己有用感の高まりが児童の規範意識や人権意識の高揚につながっていることがうかがえます。今後も児童一人一人の内面に対する共感的な理解を深め、人間的なふれあいを通して、個々の児童のよさや可能性をより発揮できるよう支援に努めていきます。

地域や社会に関わる活動の状況では、「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」との問いに肯定的な回答をしている児童の割合が高くなっています。今後は、コミュニティスクールの取組を更に充実させ、地域や社会をよくするために何をすべきか考えられる児童の育成に努めていきます。

学習に対しては、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「読書が好き」といった問いに、肯定的な回答をしている割合が高くなっており、主体的に学習に取り組む態度が定着しつつあると考えられます。読書活動については、家庭と連携した取組「家読の日」の充実を図り、読書を通じて学ぶ楽しさや知る喜びを体得させるなど、児童の自主的・自発的な読書活動につなげていきます。

ICT 機器を活用した学習状況では「授業中の調べ学習、友達と意見を交換する場面、自分の考えをまとめ発表する場面」での活用頻度が大変高く、昨年度 GIGA スクール構想により導入されたタブレット端末を活用した授業の積み重ねが結果に表れていると考えられます。今後は情報活用能力を育成するため教育活動全体で教育の情報化に取り組むとともに、情報モラルの指導を徹底し、家庭や地域と連携し、児童の自主的・主体的な ICT 機器の活用に努めていきます。

今年度本校では、学校教育目標「自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心をもち 未来をたくましく生きる児童の育成」にサブテーマ「一かんじる つながる 自分から一」を加え、様々な機会を通して、“児童が自ら動く力”の育ちを促しています。今後も、学校、家庭、地域が連携し、自ら考え表現することができる児童の育成にむけて継続して取り組んでいきます。